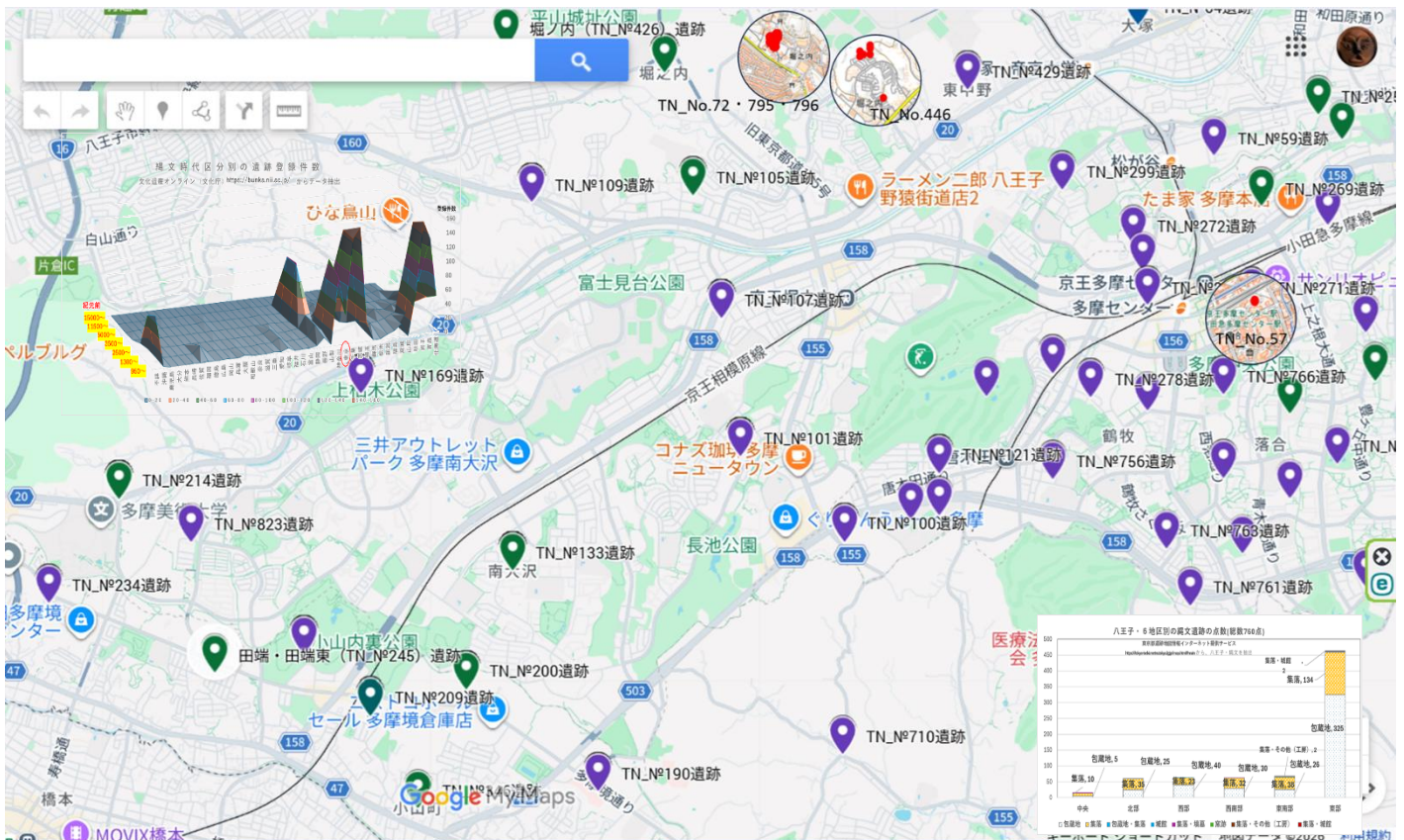


大栗川と縄文

旧石器時代に続く約 1 万 5 千年前から紀元前 1 千年頃（地域によっては紀元前 400 年頃）までを、日本では縄文時代と呼び、厳しくあっても豊かな自然と向き合って、独自の発展を遂げた文化として知られています。日本列島には旧石器時代（約 4 万年頃前）から人々が暮らしており、1 万年前頃から気候が急激に温暖化し、海岸線や河川的环境も大きく変化しました。

木の実や魚介類などの資源や土器が広く使われるようになり、竪穴住居を中心とする集落が築られました。大栗川流域も、そのような縄文人の生活の舞台の一つでした。



Google_map を用い東京都遺跡地図情報インターネット提供サービス等から筆者作図

遺跡には「遺構（当時の人々が残した建造物や活動の跡）」と「遺物（生活に使われた道具や装飾品）」の 2 つがあり、単に数で価値が決まるわけではないものの、東京都にも数多くの縄文の痕跡があることが分かります。

そのうち、八王子市内にも 760 点ほどありますが、6 割が大栗川流域を中心とした東部地区（由木地区）にあります。次号は、この地域と離れて縄文時代の全体的な自然環境を振り返ってみましょう。

※ お詫び：創刊号に誤字がありました。（誤）三大丸山遺跡 → （正）三内丸山遺跡

（大栗川縄文クラブ代表 堤 直樹）